

# ディープテック・スタートアップ支援基金／ディープテック・スタートアップ支援事業

## 概要

### (1) 事業目的

「スタートアップ育成5か年計画」に記載された大きな目標の実現に向けて、本事業を通じて、ディープテック分野のスタートアップに対する投資およびユニコーンの創出を大きく促進させるとともに、グローバル市場も視野に入れたディープテック・スタートアップの事業成長および、それらが有する革新的な技術の確立・事業化・社会実装、さらにそれに伴う新たな付加価値の創出を加速させることを目的とする。

### (2) 事業内容

本事業においては、ベンチャーキャピタル（VC）等との協調やステージゲート審査の活用を制度上に盛り込み、長期的視野に立って、実用化研究開発、量産化実証、海外技術実証等への支援を行う。ディープテック・スタートアップの研究開発および事業化のフェーズに応じて、補助率および補助金額が異なる3つのフェーズ、すなわち①STSフェーズ（実用化研究開発〈前期〉）、②PCAフェーズ（実用化研究開発〈後期〉）、③DMPフェーズ（量産化実証）を設定しており、ステージゲート審査により継続可能と判断された場合には、次のフェーズにおいて事業を継続して実施することも可能である。各フェーズの事業期間および補助対象費用の上限は以下のとおりである。

①STSフェーズ：2～4年を目安、3億円または5億円以内

②PCAフェーズ：2～4年を目安、5億円または10億円以内

③DMPフェーズ（量産化実証）：2～4年を目安、25億円以内

※事業期間全体では6年以内、補助金総額は30億円以内とする。

### (3) 事業形態

事業期間：2023年度～2032年度

予算金額：877億円（総額）【一般】

支援形態：1/2又は2/3補助

NEDO根拠法：第15条第3号、7号、8号及び第9号

事業紹介ページ



## 政策・他事業との関連

NEDO担当部：スタートアップ支援部

経済産業省担当課：イノベーション創出新事業推進課

・「スタートアップ育成5か年計画」に基づき、ディープテック分野でのユニコーン創出に寄与することを目指すもの。

・「研究開発型スタートアップ支援事業」において実施していた、STS事業、PCA事業の後継として実用化研究開発を支援するとともに、量産化実証を支援するDMPフェーズを新設し、より一層手厚い支援を行うことで、ディープテック・スタートアップの企業価値向上を後押しするもの。

## 達成目標

### (1) アウトプット目標

STSフェーズ（実用化研究開発（前期））、PCAフェーズ（実用化研究開発（後期））は、原則、支援終了後1年以内に、次シリーズでの資金調達を実施した者の割合を5割にする。DMPフェーズ（量産化実証）は、原則、支援終了後1年以内に、商用生産のための資金調達又は商用生産開始に至った者の割合を5割にする。

### (2) アウトカム目標

ディープテック・スタートアップの有する革新的な技術の確立・事業化・社会実装の加速と、ディープテック・スタートアップのエコシステムの成長に向けた支え手及びその連携の活性化を図る。※本事業を通じてディープテック分野の10社のユニコーン級のスタートアップの創出に寄与することも参考指標として設定する。

### (アウトカム目標達成に向けての取組)

いずれのフェーズにおいても、VC、CVC、事業会社等からの出資等を得ることを交付要件としており、事業化や資金調達に向けたハンズオン支援を予定。また、事業会社等との事業提携等を、STSフェーズ（実用化研究開発（前期））、PCAフェーズ（実用化研究開発（後期））では補助上限引き上げ要件、DMPフェーズ（量産化実証）では必須要件とするなど、提携を促進。

# GX分野のディープテック・スタートアップに対する実用化研究開発・量産化実証支援事業

NEDO担当部：スタートアップ支援部  
経済産業省担当課：イノベーション創出新事業推進課

## 概要

### (1) 事業目的

日本はGX分野における社会実装に関して国際的に出遅れており、技術シーズの早期実用化に向けては、スタートアップの活用が不可欠である。しかしながら、スタートアップは需要の創出や資金調達において課題を抱えている。「技術で勝ってビジネスで負ける」事態を回避するため、スタートアップによるGX関連技術の早期実装を強力に後押しするものである。

### (2) 事業内容

本事業においては、ベンチャーキャピタル（VC）等との協調やステージゲート審査の活用を制度上に盛り込み、長期的視野に立って、実用化研究開発、量産化実証、海外技術実証等への支援を行う。ディープテック・スタートアップの研究開発および事業化のフェーズに応じて、補助率および補助金額が異なる3つのフェーズ、すなわち①STSフェーズ（実用化研究開発〈前期〉）、②PCAフェーズ（実用化研究開発〈後期〉）、③DMPフェーズ（量産化実証）を設定しており、ステージゲート審査により継続可能と判断された場合には、次のフェーズにおいて事業を継続して実施することも可能である。各フェーズの事業期間および補助対象費用の上限は以下のとおりである。

- ①STSフェーズ：2～4年を目安、3億円または5億円以内
  - ②PCAフェーズ：2～4年を目安、5億円または10億円以内
  - ③DMPフェーズ（量産化実証）：2～4年を目安、25億円以内
- ※事業期間全体では6年以内、補助金総額は30億円以内とする。

### (3) 事業形態

事業期間：2024年度～2032年度  
予算金額：378.7億円（2025年度時点）【需給】  
支援形態：2/3補助  
NEDO根拠法：第15条第3号、7号、8号及び第9号

事業紹介ページ



## 政策・他事業との関連

- ・「スタートアップ育成5か年計画」に基づき、ディープテック分野でのユニコーン創出に寄与することを目指すもの。
- ・「ディープテック・スタートアップ支援基金／ディープテック・スタートアップ支援事業」とほぼ同内容でGX分野に特化して支援するもの。これら事業の特徴を維持しながら、GX分野におけるディープテック・スタートアップの企業価値向上を後押しするもの。

## 達成目標

### (1) アウトプット目標

ディープテック・スタートアップは、研究開発による成果と企業価値の向上との関係が深い。NEDOが支援した者の研究開発が新たな付加価値を創出した結果として、外部からの資金調達を実現できたか否かをアウトプット目標に設定する。原則支援終了後1年以内に、次シリーズでの資金調達を実施した者の割合を5割にする※量産化実証支援事業の場合は、原則支援終了後1年以内に、商用生産のための資金調達又は商用生産開始に至った者の割合を5割にする。

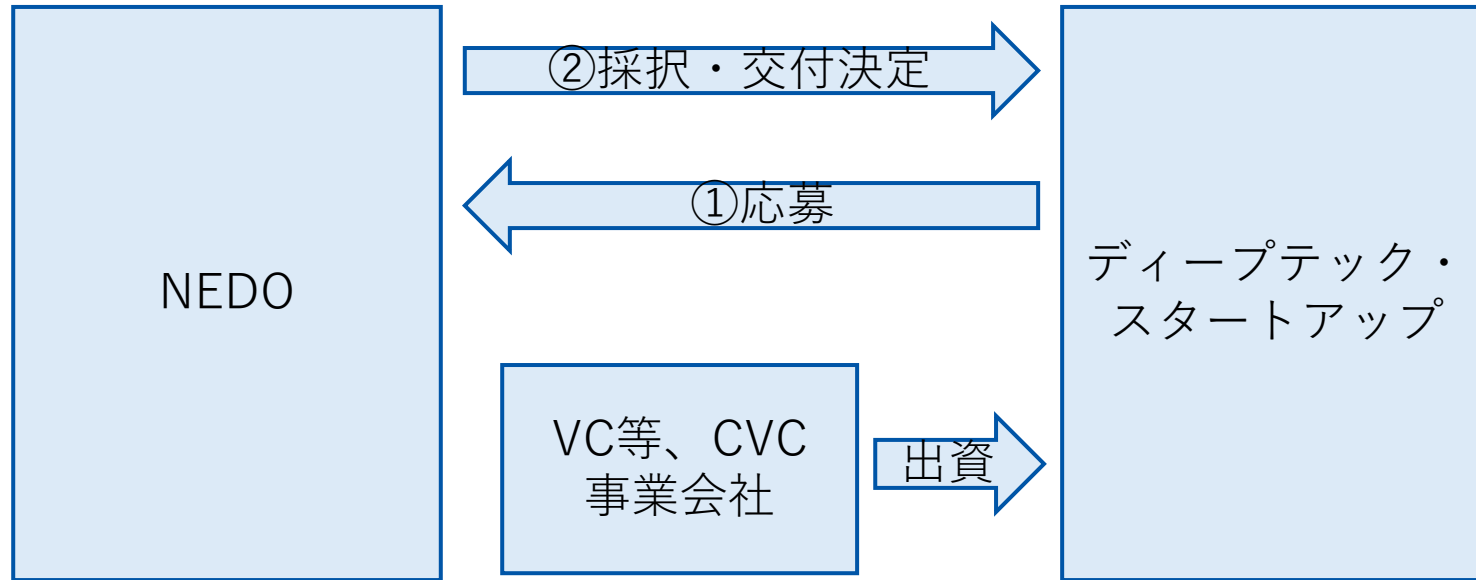
### (2) アウトカム目標

ディープテック・スタートアップの有するGX経済の実現に資する革新的な技術の確立・事業化・社会実装の加速と、GXの推進及びGX分野のディープテック・スタートアップのエコシステムの成長に向けた、事業会社等支え手及びその連携の活性化。

### (アウトカム目標達成に向けての取組)

幅広い広報活動や他の政府機関との連携、申請前の事前相談等により支援対象の掘り起こしに努めるとともに、採択者に対するモニタリングと伴走支援や、ステージゲート審査によるマイルストーン管理をおこなう。

## 実施体制



採択事業者一覧は、下記の事業紹介ページに掲載している。



# スケジュール

		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
ディープテック・スタートアップ支援基金／ディープテック・スタートアップ支援事業（DTSU事業）		[Blue shaded area]			中間評価※		新規採択の停止 既採択案件の支援のみ継続					終了時評価※
GX分野のディープテック・スタートアップに対する実用化研究開発・量産化実証支援事業（GX DTSU事業）					中間評価		新規採択の停止 既採択案件の支援のみ継続					終了時評価※
実績額（億円）	DTSU事業	34.4	134.3	集計中	—	—	—	—	—	—	—	—
	GX DTSU事業	—	2.3	集計中	—	—	—	—	—	—	—	—
予算額（億円）	DTSU事業	総額877億円（基金）										—
	GX DTSU事業	—	2.3	376.4	—	—	—	—	—	—	—	—

※DTSU事業においては、経済産業省が評価を実施する。